

# ボランティア相館

## ボランティアの記

国際16期 山尾 松代

KSCアロハハワイアンズに入って1年余が過ぎました。期待と不安を抱きながら…。ちょうど今の1年生の心境ではなかったかしらと思い返しています。

先輩の指導のもと練習を重ねて初めてのボランティアデビューは垂水グループホームでした。施設に入所されている方々が順次席に着き、いよいよバンド演奏と私たちフラダンスの初お目見えです。きれいなレイを掛け、一緒に手拍子で歌ったり、輪になって踊ったり、演奏やフラダンスを楽しみ、ニコニコと良い顔で過ごされていた姿が忘れられません。最後はアロハオエで締めくくりです。帰る時には手を振って「また来てね、待っていますよ」と声を掛けられ、逆に元気をもらいました。その後もボランティア活動で、こちらが元気をもらい勇気づけられることが多かったです。

心を一つにして演じることは何ものにも代えがたい達成感があり、皆さんに喜んでもらえることはまさにボランティア冥利に尽きるとつくづく感じています。

ジョイラックデイや学園祭ではとびきりの笑顔でお会いしましょう。その時には暖かいご声援をお願いします。

## 神戸まつりで大活躍



5月16日(日)  
開催された第40回神戸まつり・メインフェ

スティバルの『花舞台』に、当シルバーカレッジのボランティアグループから、楽遊(銭太鼓)とKSCアロハハワイアンズの2グループが参加しました。すばらしい歌声の81歳『岩下さん』が紹介されると会場から驚きの声が上がりました。

また広いお祭り会場ではカレッジのイベント清掃ピカピカ隊の皆さんが大活躍。そろいのTシャツ、帽子、腕章をつけ、多くの人ごみのなか、会場をゴミで汚さないよう

に、まつりの裏方としてしっかりと支えています。

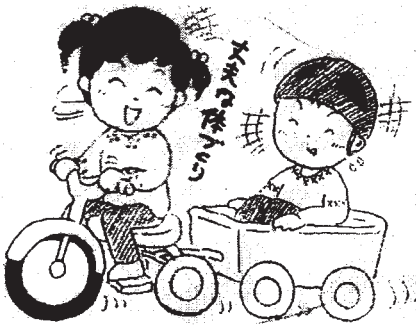


(写真・取材：情報誌 叶谷輝夫 伊川一男)

## ボランティアの心

### 子どもたちと一緒に

飯井 冴子



毎週木曜日は私の楽しみにしている日です。

その日は養護学校小学部の図工授業サポートに行く日だからです。個性豊かな、いろんな子

ども達を見守りながら一緒に授業を楽しんだ後、教室の後片づけをして帰ります。

私のニコニコ顔と子どものニコニコ顔が出会った途端、「チュー!!」をしてくれる子どももいます。

「すみません、この子チューが大好きなんですわ」と先生。(ハイ、私も大好きです)(笑)

図工の時間が始まると、ひとりずつ能力が違います。クレパスをなんとか握ることが出来る子、ていねいにカラフルに塗り上げる子……。先生は1人で2人ずつくらい見守りながら、皆の能力に合ったほめ言葉をかけたりして、やさしく接していらっしゃいます。

将来、社会参加が出来そうな子どもには、物事の善悪をはっきりと示唆し、厳しく指導されるとのことです。また、ある時、私の見守っていた子どもが、クレパスの巻き紙を全部破っていったのですが、私は「面白いの?むくのが大好きなんだね」と笑っていました。しかし、後から側に来られた先生は「皆が使うものだから破ったらダメよ」と注意されました。するとその子どもは、ひっくり返って足をバタバタとして暴れはじめました。先生は、大人が別々の対応をすると、どうしていいかわからなくなってパニックになるのです。同じ叱り方をしないとダメなのだと教えて下さいました。

このボランティアをしようと思ったときは、私にできるのだろうかと不安であり、勇気もいりました。でも今は、一緒にやってくださいませんか?の声かけをして(引きずり込んで?)仲間が5人に増えました。

思えば阪神大震災直後の救援活動からずっと、何らかの活動に参加させてもらっています。

これからも灘区というローカル線で、この指とまれと声をかけながら、出来ることをやっていこうと思います。